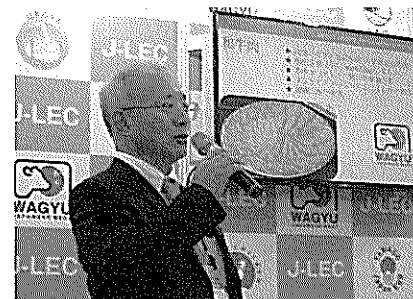


## 台湾でのPR盛況、輸出拡大へ和牛解禁力ギ―輸出促進協議会



既報のとおり、日本畜産物輸出促進協議会はこのほど、台湾で開催された「フード・タイペイ2016」のジェトロ・ジャパンパビリオン内に出席。台湾国内の流通・小売業者などに日本の畜産物の認知度向上と輸出拡大に向けた推進を図るため、日本産畜産物の特徴解説、日本食文化との一体的なプロモーション、日本産畜産物の特長を活かす調理方法提案や実演を盛り込んだセミナーが開催された。同展示会は37カ国の地域から1千社・団体が出展し、来場者は約7万人にのぼる。

セミナーでは、協議会の菱沼毅理事長が牛肉、豚肉、鶏肉、牛乳乳製品を含むオール畜産物について、日本畜産物の飼養状況、生産・流通状況、特徴などを紹介し、ミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役(写真)がオール畜産をより具体的に説明した。

さらに台湾では輸入解禁に至っていない和牛肉について触れ、血統登録、脂肪交雑、和牛香、トレーサビリティ、厳格な格付けなどについて述べた。また、J A全農畜産総合対策部の宮川拓也氏は日本産豚肉の牧場での衛生管理、飼養管理、食肉の衛生管理、おいしさ、調理例などを紹介。さらに鶏卵と牛乳乳製品の説明を行った。

会場では豚肉、鶏卵、牛乳乳製品の展示と試食が行われたが、安全で高品質、そしておいしい日本産畜産物にはいずれも人だかりができる盛況ぶりとなった。また、それぞれの畜産物には、それぞれの畜種の統一マークシールが貼られ、日本産であることをアピールし、その存在感を誇示した。

植村常務は「日本産畜産物に、台湾の人たちは好印象を持っており、香港と同じようなマーケットに成長すると実感した。セミナーで和牛を食べた人に挙手してもらったところ約半数が手を挙げ、食べたい人に挙手を求めると全員だった。このことから、台湾の和牛解禁が輸出数量拡大に大きなインパクトになることを確信した」と、手応えを語った。

## 熊谷動物衛生課長が主席獣医官に就任、伊藤室長がOIE代表に

農水省の熊谷法夫動物衛生課長が先月17日付で主席獣医官に就任した。同日付で川島俊郎主席獣医官・OIE日本代表が食品安全委員会事務局長に異動になったための人事。

OIE日本代表には先月24日、伊藤和夫国際衛生対策室長に任命する省内手続きが完了し、同日付で同代表に就任した。